
あおいそら

郎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

あおいそら

【Nコード】

N6213E

【作者名】

郎

【あらすじ】

そらがあおいね、と彼女は言う。

空を見ていた。

「あおいね。」

空があおいね、と彼女は言った。

僕は空を見上げていて、けれど改めて空を見てみた。

「あおい？」

あおくはなかった。お世辞にしても何にしても、とてもとてもあおとは言えない、黒ずんだ色を空はしていた。

「あおいよ。」

けれど彼女は、その空をあおいと言い切ってしまう。

仕方が無く、僕はまたその、彼女いわくの

「あおいそら」を見上げてみた。

「…あおくないよ。」だってこんなに暗いのだ、全然あおくんかない。無理したところで、紺あたりが限界だろう。

「あおいよ。」

それでも彼女はいう事を変えない。彼女の空は、あくまでもあおであおくてあおいのだ。

けれど僕のはそうではなかった。じつと、目をこらして見ても、空はあくまで黒ずんだままだ。

時々、ちかりちかりと輝く星が綺麗だから、これはこれで結構綺麗だ。

あおぞらじゃなくても、別にいいじゃん。そんな感じで、不満でも零してしまいたくなる。

「…あおい、かなあ。」

「うん、あおい。」

彼女は、嬉しそうに頷いた。ちょっと溜息を付いてやろうかと顔をさげたら、彼女の笑顔が見えてしまった。

見たのはほんの一瞬なのに、その瞬間で目に焼きついた。

幸せそうな笑顔だった。満面の笑みとは、こういうものであったのか。

僕はしかたなく溜息を引つ込め、彼女に合わせて無理矢理に笑った。そして次の瞬間には、僕の口から言ってやるのだと意気込んだ。すうつ、と、気合を入れて息を吸い込む。

「きょうは、そらがあおいね」

彼女は一度目をしろくろさせ、それから満面の笑みで笑った。

さっきのよりも、今までのよりもずっとずっと、幸せそうで、印象的なすごい笑顔。

僕は言葉に詰まってしまつて、そのまま俯き黙りこんだ。

隣から、楽しい笑い声が聞こえた。

少女のように、子供のように幼子のように、無邪気な様子で彼女は笑んだ。

そして一人で走り出すと、楽しそうにくるくると回り踊るのだ。一人でくるくる踊るのだ。楽しそうに、舞っているのだ。

顔をあげてしまった僕は、たった独りでそれを見ていた。

こみあげてきた、涙を無理矢理押さえ込んで、僕は独りで観客となるのだ。

あおいそのその下で、くるくると楽しそうに踊る、彼女の唯一の観客になるのだ。

（後書き）

勢いで書きちゃったようしろう、みたいなそんなブツ。
なんか「小説書いたぜ」みたいな気分になりたかったんだと思わ
れ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6213e/>

あおいそら

2010年11月24日06時10分発行